

「個別の教育支援計画」を活用した 切れ目のない支援の充実に向けて

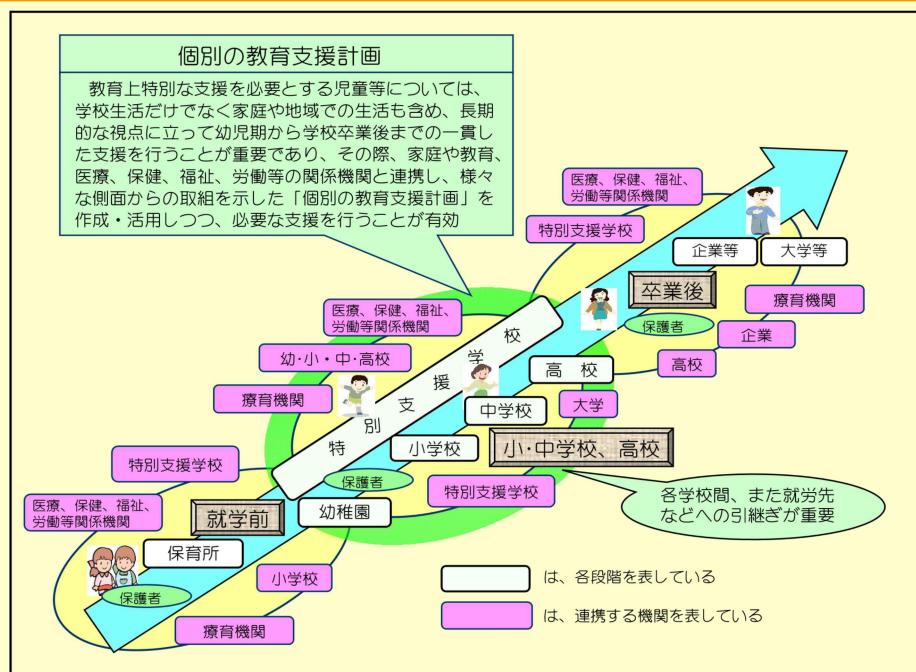
～すべての子どもの社会的自立をめざして～



管内においては、小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒や通級による指導を受ける児童生徒が増加する傾向が見られるなど、特別支援教育に対する理解の深まりを背景に、障がいに応じた専門性の高い教育を受けたい、受けさせたいというニーズが高まっております。

そのため、教育、福祉、医療、労働等が一体となって社会全体として児童生徒を生涯にわたって支援していく体制を整備し、児童生徒の学校生活はもとより、家庭生活や地域での生活を含め、長期的な視点に立って幼児期から学校卒業後までの一貫した支援を行うことができるようになるとともに、学校では、関係機関と連携し、様々な側面からの取組を示した「個別の教育支援計画」を作成し、必要な支援を行うことが求められています。

本リーフレットでは、このような状況を踏まえて、各学校が「個別の教育支援計画」を用いた支援の充実を図れるよう、作成の手順や活用事例を紹介しています。



新学習指導要領総則には、「特別支援学級に在籍する児童生徒や通級による指導を受ける児童生徒については、個々の児童生徒の実態を的確に把握し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、効果的に活用するものとする。」と示されています。

また、「障がいのある児童生徒などについては、家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で児童生徒への教育的支援を行うために、個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに、各教科等の指導に当たって、個々の児童生徒の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。」と示されています。

1 子ども、保護者の思いや願いを共有するために「個別の教育支援計画」を作成しましょう。

学校が子ども、保護者と、子どもの成長を共有しながら効果的な支援を行っていくために、「個別の教育支援計画」の作成に当たって、保護者の積極的な参加を促し、その意見を支援の充実に活かしていくことが大切です。

◎ 「個別の教育支援計画」を作成する流れ

①保護者の同意
保護者によるフェイスシートの記入



②実態の把握
学級担任、教科担任による記入



③情報の収集・整理
校内委員会の開催



④長期・短期目標の設定
子ども、保護者の願いの反映



⑤具体的な支援内容の設定
支援内容・方法の共有



⑥評価・改善
校内委員会による支援内容や方法の評価・改善

宗谷管内では、宗谷管内専門家チームで「個別の教育支援計画(宗谷版)」と「個別の教育支援計画(宗谷版)作成と活用の手引」を作成しています。それぞれ宗谷教育局のホームページからダウンロードすることができます。

宗谷管内特別支援連携協議会特別支援教育推進資料



保護者の同意を得て作成するために、次のようなステップが考えられます。

- ①保護者の思いを聞く。
- ②支援の内容や方法を提案する。
- ③子どものよさと教育上の課題を確かめ合う。
- ④次の支援を一緒に考える。
- ⑤これらのこと記録していくよさを話し合う。

<ポイント>

保護者を説得するのではなく子どもを中心据えて、子どもにとって何が一番よいかを保護者と共に考えていくことで互いに理解し合って育していくというつながりを深めることができます。

長期的な見通しをもって支援を進めるために、子ども、保護者と十分に話し合って長期目標として、「**将来の希望**」を記入します。どのくらいの期間かは、子どもの状況に応じて適切に設定します。また、その目標に対して、段階的な支援の目標を短期目標として設定していきます。

<ポイント>

子どもや保護者の願いを反映して目標を明確にすることで、子ども、保護者と学校や関係機関が目標を1つにして、連携した支援を進めていくことができます。

目標を達成するための具体的な支援内容を子ども、保護者と相談しながら記入します。例えば、自分が指導されていることに気付くにくい子どもに対して、「名前を呼んでから具体的にやることを伝える」とするなど、支援内容を具体化します。

さらに、支援内容を「個別の教育支援計画」に記載し、保護者と共有することで、子どもの成長を確認しながら、支援内容の検証改善を行うことができます。

<ポイント>

「子どもの成長に応じて、具体的にどのように支援するのか」を明確にして、保護者と共有し、成長を確認しながら、支援を進めていくことで、子ども、保護者との共通理解のもとで、支援の評価・改善を進めしていくことができます。

2 「個別の教育支援計画」を用いて、支援の充実に向けた検証改善を進めることが大切です。

子どもの成長に合わせて支援内容を見直し、より効果的な支援を求められるようにするために、「個別の教育支援計画」を活用し、支援内容の検証改善を組織的、計画的に行なうことが大切です。

「個別の教育支援計画」を用いて支援の充実を図る検証改善のスケジュールの例

R e s e a r c h

- ◇「個別の教育支援計画」の作成に関する保護者との合意形成
- ◇教育的ニーズの把握と情報収集

P l a n

- ◇支援の目標の設定
- ◇「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成と活用

D o

- ◇「個別の指導計画」に基づいた指導

C h e c k

- ◇指導における評価
- ◇支援会議における支援内容の評価

A c t i o n

- ◇支援の内容と方法の改善

C h e c k

- ◇1年間の振り返り
- ◇次年度への引継ぐ内容について

A c t i o n · P l a n

- ◇支援の内容と方法の改善
- ◇新年度の計画・実施

4月 小学校入学 ①情報収集

- ・幼稚園で作成した「個別の教育支援計画」や療育プログラムの内容を保護者の同意を得て、「個別の教育支援計画」の作成に生かすことを確認し、子どもの実態把握と資料の整理を行う。

4月中旬～下旬 家庭訪問・保護者面談等

②「個別の教育支援計画」の作成

- ・子どもの発達や成長について、複数の関係者で話し合って望ましい支援を見出していくことの重要性を保護者に伝える。
- ・定期的な支援会議を行うことを保護者と確認する。
- ・「個別の教育支援計画」作成の意義や作成による保護者のメリットを等を説明し、同意書や委任状を作成してもらう。
- ・子どもの希望をもとに、「個別の教育支援計画」の長期目標と短期目標を設定する。
- ・子ども、保護者のニーズを聞き取り、長期目標と現時点での支援内容の見通しについて、子どもと保護者と学校で合意形成を図り、「個別の教育支援計画」を作成する。

5月 校内支援委員会等

③「個別の指導計画」の作成・活用

- ・「個別の教育支援計画」の短期目標から、「個別の指導計画」の目標を設定する。
- ・指導方法、指導者、目標達成時期、評価の方法などについて、子どもと保護者との合意形成を図つて明記する。
- ・校内支援委員会等で、教職員の支援内容に対する共通理解を図る。
- ・指導ごとの評価を行い、子ども、保護者と達成状況を確認して、達成された短期目標は改めて設定し直す。

7月 支援会議の実施

④「個別の教育支援計画」の見直し

- ・4月に設定した目標や支援内容を振り返り、子どもの実態に合っているのかを子ども、保護者と相談しながら、評価するとともに、改善点があれば修正する。
- ・支援会議では、保護者の不安を考慮して、幼稚園の先生などから小学校入学後の子どもの成長の様子を確認したり、支援内容等の改善について協議したりするなどの工夫を行う。

※「個別の教育支援計画」について②～④によりP D C Aサイクルで評価改善を行う。

3月 新年度体制に向けて ⑤次の学年への引継ぎ

- ・支援会議等において、短期目標の達成状況や、長期目標の修正の必要性、来年度の目標の確認、今後の指導の確認等を行なう。
- ・支援会議等で、指導や支援の経過や評価、来年度の取組についての話をする。
- ・会議で決定した支援内容を子ども、保護者と確認して「個別の教育支援計画」に記載する。
- ・子ども、保護者と合意形成を図った支援内容について、担任が替わっても引き継がれることについて、面談等で確認し、合意形成を図った支援内容について「個別の教育支援計画」に記載する。

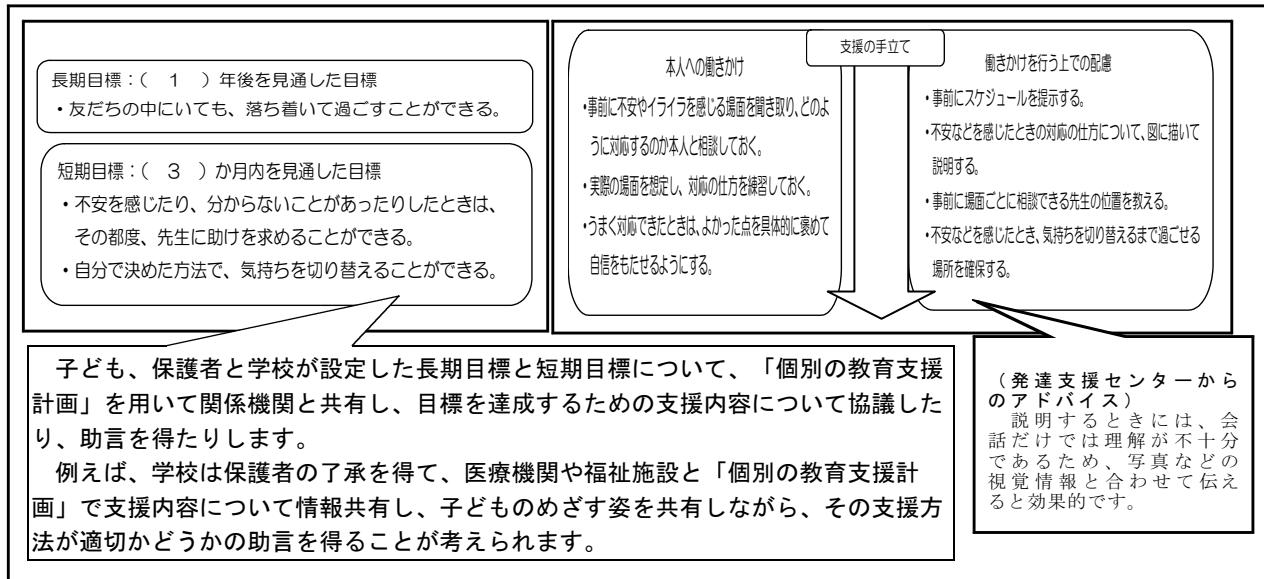
3 関係機関と連携して、早期から一貫した支援を行うため、「個別の教育支援計画」を活用しましょう。

支援の目標を学校と関係機関が共有し、それぞれの役割を明確にして連携した支援を充実させるために、「個別の教育支援計画」を活用することが大切です。

○ 関係機関との連携を活かして効果的な支援を行うためのポイント

- 既存のネットワークを整理して支援体制を分かりやすくしましょう。
既に関係機関で「個別の支援計画」等が作成されている場合は、「個別の教育支援計画」を示しながら、そのネットワークを活用して、一体となった支援体制を整え、支援を継続していくことが大切です。
- 関係機関との「共通の言葉」を整理しましょう。
学校以外の関係機関と連携を図るには、相手の立場に立ったコミュニケーションが大切です。専門的な用語は、その言葉の意味や用法を確認したり、使用を控えたりするなどの配慮が会議をスムーズに進めることにつながります。
- 保護者が活用可能な機関を紹介しましょう。
個々のニーズに応じた支援の目標や内容に応じて、関係機関に広がりをもたせます。「相談支援マップ」を活用したり、近くの特別支援学校や、活用できる機関を明らかにして、保護者に情報提供したりすることが大切です。

○ 「個別の教育支援計画」を関係機関と活用する例



☆ 「相談支援マップ」の活用

宗谷教育局では、相談の内容に対応させた相談機関の紹介を示した「相談支援マップ」を作成し、ホームページに掲載しています。

「個別の教育支援計画」の作成に当たって、当該機関と連携を図りながら、支援の充実を図ることが大切です。

宗谷管内の「つながる」相談支援マップ→

